



南海なんば第一ビル

Zepp Namba (Osaka)

なんばパークス

なんばスカイオ

THE NAMBA TOWER

大阪本町市場

若附噴

御堂筋

FEATURE 1

「なんば」をつくる

建物を設計する際、私たちは目の前にあるまちの姿を読み解き、どうあるべきかを考え、都市への想いを建物に託す。しかし、ひとたび建物が完成し、そこに人が集ようになると、想像もしなかったような人と建物の交わりや流れが生まれる。その最たる例が「なんば」であろう。なんばのまとまったエリアで大林組がずっと建設に携わってきた「なんばパークス」、「Zepp Namba (Osaka)」、「南海なんば第一ビル」、「なんばスカイオ」…。設計者の想像を超えて、建物が新しい都市へと受け入れられるとき、私たちはその様を楽しみ、その都市に魅せられる。それは都市の設計にたずさわる者としての醍醐味であり、面白さでもある。

# なんばをつなぐ散歩道

なんばスカイオ／なんばパークス

なんばスカイオ



なんばパークス

なんばの主要エリアは、レジャー施設やショッピングエリアを歩いて回遊できるように設計されている。人々が気軽に、そして自由に、自分の足で楽しめるところが魅力である。「なんばスカイオ」や「なんばパークス」は、地上での人の流れを活かしながら、意図して立体的な動線をつくり、よりまちとしての魅力を高めている。たとえば「なんばスカイオ」は、1階だけでなく2階にも南北を貫く通路があり、「なんばパークス」は階段状に広がる踊り場のような広場や豊かな緑により、都市の中に森をつくっている。それにより、光の入り方や風の流れ方が変わり、まちに多様な顔が生まれ、訪れる人の感性を刺激している。

「なんばスカイオ」の西に位置し、パークス通りと名前を変えたメインストリートは、年齢や性別、国籍も異なる様々な人々が行き交う。一見雑多とも思える人の流れこそ、なんばというまちの個性であり、大きな魅力となっている。

# 人がつながるなんばの余白

南海なんば第一ビル / Zepp Namba (Osaka)



南海なんば第一ビル



Zepp Namba (Osaka)

なんばの開発エリアの南にはライブホール「Zepp Namba (Osaka)」と、大阪府立大学のサテライトキャンパスと南海電気鉄道のオフィスが入った「南海なんば第一ビル」がある。趣の異なる二つの建物が、三角形の広場を共有して向かい合っている。あえて全く違う用途の建物と建物の間に広場を設けることで、目的の異なる人たちがすれ違う偶然性とそこに生まれる物語を期待している。緑が少ないと言われてきたなんばのまちに、北側のエリアからの緑を連続させようと、広場にも植栽が多く配置されている。この緑が広場に季節感や安らぎをもたらし、学生やワーカー、ライブを訪れる人々を優しく受け入れつなく、緑化広場となる。昼間は学生とワーカーが同じ空間で、思い思いに憩いの時間を過ごしている。あたりが暗くなる頃には、ライブを待つ人々の期待感や高揚感が熟となって広場を大きく包み込む。まちの中に人がつながる余白があること、これもなんばらしさだ。



なんばのまちへ出かけるたびに、私たちは時に驚かされ、時に愛おしく感じることがある。それは、まちとの対話に近い。設計するということは、作り手からの一方通行ではなく、日々の中から、まちの声を聞き出していくことでもある。

都市と人、建築の関係は徐々に形を変えていき、設計者の想像を超えていく。あらゆる可能性に満ちたまち、それがまさになんばであり、唯一無二の魅力となっている。

まちに寄り添い、受け止め、対話を楽しみながら、設計者もまた、なんばというまちと共に成長していけるのだ。